

・解答

	仕訳			
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	現金過不足	10,000	受取手数料 雑益	6,000 4,000
2	売掛金	27,000	売上	27,000
3	仕入	200,000	前払金 買掛金	150,000 50,000
4	備品減価償却累計額 未収金 固定資産売却損	100,000 50,000 150,000	備品	300,000
5	仮払金	100,000	現金	100,000

・解説

- 現金過不足に関する問題です。現金過不足勘定を雑益または雑損に振り替える仕訳は、日商簿記検定 3 級では頻出の論点ですので、必ず出来るようにしておいてください。

本問はまず、問題文の「現金の実際有高が帳簿残高より多かったため、現金過不足勘定で処理されていた 10,000 円」という仕訳を考えると分かりやすいです。

期中に現金の過不足が判明した場合（帳簿残高≠実際有高）、とりあえず現金過不足勘定で一時的に処理しておいて、理由が判明したものについてはその勘定科目に振り替え、最終的に原因が特定できなかったものについては決算整理仕訳で雑益または雑損に振り替えます。

では仮に、実際有高を 110,000 円・帳簿残高を 100,000 円とします。この場合は帳簿残高を実際有高に合わせるために以下のような仕訳を切ることになります。

☆既に切られている仕訳

(借) 現金 10,000 / (貸) 現金過不足 10,000

このうち、「6,000 円は受取手数料の記入漏れであることが決算日にいたり判明した」と問題文にありますから、6000 円に関しては現金過不足勘定を受取手数料勘定へ振り替えることになります。

(借) 現金過不足 6,000 / (貸) 受取手数料 6,000

残額の 4,000 円については問題文に「**残額については不明**」とありますから、現金過不足勘定を雑益勘定へ振り替えることになります。

(借) 現金過不足 4,000 / (貸) 雑益 4,000

現金過不足に関する問題を解く際のポイントは、「**現金過不足勘定を計上したときの仕訳をイメージすること**」と「**最終的には現金過不足勘定の残高をゼロにする（現金過不足勘定は翌期に持ち越さない）**」という点です。

なお、現金過不足に関する問題は、第 110 回の間 4や第 111 回の間 4、第 117 回の間 1、第 123 回の間 2でも出題されていますから、併せて確認するようにしてください。

2. 訂正仕訳に関する問題です。このような問題は【①間違って切ってしまった仕訳】→【②正しい仕訳】→【①を②に訂正する仕訳】という順番で考えていくと分かりやすいと思います。本問では以下のようになります。

☆①間違って切ってしまった仕訳

(借) 売掛金 69,000 / (貸) 売上 69,000

☆②正しい仕訳

(借) 売掛金 96,000 / (貸) 売上 96,000

★①を②に訂正する仕訳→解答

(借) 売掛金 27,000 / (貸) 売上 27,000

このように分けて考えるととても簡単な問題ということがお分かりいただけると思います。いきなり解こうとすると貸借を逆に書いてしまったりするので、上記のように分けて考える癖を練習段階から意識して行うようにしてください。

訂正仕訳に関する問題は、第 112 回の間 5でも出題されていますので、併せて確認しておいてください。

3. 仕入取引に関する問題です。この問題は【前払金に関する仕訳】【買掛金に関する仕訳】に分けて考えると分かりやすいです。

・前払金に関する仕訳

問題文に「代金のうち 150,000 円はすでに支払ってある手付金で充当し」とありますので、手付金支払時の仕訳を考えた上で解答を導き出すと分かりやすいです。

☆手付金支払時の仕訳（既に切られた仕訳）

（借）前払金 150,000 / （貸）現金など 150,000

★解答①

（借）仕入 150,000 / （貸）前払金 150,000

ここで注意していただきたいのは、前払金勘定と仮払金勘定の違いについてです。前払金というのは、**なんのためのお金かはっきりしている状態で支払う場合に計上する勘定**で、一方、仮払金というのは、**なんのためのお金が決まってはいるが、とりあえず先に支払う場合に計上する勘定**です。

本問の場合は、問題文に「代金のうち 150,000 円はすでに支払ってある手付金で充当し」とあり、**なんのためのお金かはっきりしている状態で支払っていますから、前払金勘定で処理**します。

・買掛金に関する仕訳

問題文に「残額は掛けとした」とありますので、通常の掛け仕入の仕訳をするだけです。

★解答②

（借）仕入 50,000 / （貸）買掛金 50,000

上記の①②の仕訳をまとめると解答の仕訳になります。ほとんど同じ問題が第 128 回の問 3 でも出題されていますが、どちらも絶対に落としてはいけない問題です。

4. 固定資産の売却に関する問題です。固定資産の売却損益は、**売却時の帳簿価額と売却価額の差額**により算定します。本問の場合、売却直前の帳簿価額は【取得原価 300,000 円－減価償却累計額 100,000 円＝200,000 円】となりますので、これと売却価額 50,000 円とを比較して、売却損の 150,000 円を計上することになります。

なお、50,000 円に関しては商品売買以外の取引から発生した債権ですので、売掛金勘定ではなく未収金勘定を使って仕訳を切ることになります。

固定資産の売却に関する問題は、第 102 回の問 2や第 105 回の問 2、第 108 回の問 1、第 119 回の問 5、第 120 回の問 1、第 122 回の問 5でも出題されていますので、併せて押さえておくようにしてください。

5. 仮払金に関する問題です。旅費の正確な金額は、従業員の出張後でなければ把握できませんので、とりあえず**一時的に仮払金勘定で処理**しておき、旅費交通費の正確な金額が判明したときに、仮払金を適当な勘定科目に振り替えることになります。

なお、その後、旅費交通費の正確な金額が確定し、旅費を精算する場合の仕訳が問われる場合もありますので、この機会に仕訳を押さえておくとうまいと思います。

☆類題①・・・仮に旅費が 120,000 円だった場合の仕訳

(借) 旅費交通費 120,000 / (貸) 仮払金 100,000
(貸) 現金 100,000

☆類題②・・・仮に旅費が 80,000 円だった場合の仕訳

(借) 旅費交通費 80,000 / (貸) 仮払金 100,000
(借) 現金 20,000

なお、仮払金に関する問題は、第 100 回の問 4や第 110 回の問 3、第 119 回の問 4、第 124 回の問 4、第 129 回の問 4で出題されています。

第 100 回・第 110 回・第 115 回が「仮払金の計上時の仕訳」を問う問題になっているのに対して、第 119 回・第 124 回・第 129 回は「仮払金の精算時の仕訳」を問う問題になっています。

仮払金処理の一連の流れを理解したい場合は、【計上時の仕訳問題→精算時の仕訳問題】の順番で解くようにすると、流れが分かりやすくて良いと思います。